

コミュニケーション能力を育成する

【民泊】北広島町民泊・【施設泊】県民の浜

呉市立蒲刈小学校 校長：恵良 隆久

呉市立下蒲刈小学校 校長 吉本 俊英

異年齢と交流する場面の設定とその効果

1 「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

異年齢と交流する場面を設定し、相手の話を聞いたり自分とは異なる考えに触れたりすることを通じて、自分のことや自分たちが住んでいる地域のことを話してみたくなったり、相手の考えを受けて自分の考えを広げたり深めたりする体験をさせながら、コミュニケーションに関する力を向上させたいと考えています。

また、普段はそれぞれに学習をしている学校の児童同士の交流もねらいの一つです。自分と違う考えや立場にある友達と、互いを認め合いながら助け合ったり協力し合ったりするといった人間関係をよりよく形成していくことについては、様々な機会をとらえて設定していきたいと考えています。この集団宿泊活動でもその機会をとらえて学習を計画しました。これらは、保護者の願いでもありました。

2 「山・海・島」体験活動の概要

(1) 目的

- よりよい集団活動を通して、2校の児童の相互の交流を深め、親睦と友情の輪を広げるとともに、学校相互の交流を深める。
- 体験活動を通じて、多様な他者とのコミュニケーションを図ることで、
- 自然活動を体験させ、今後の生活や学習に生かす。
- 健康・安全に留意し、協力や勤労の重要性や集団生活、公衆道徳についての正しいマナーを体得させる。

(2) 3泊4日の主な内容

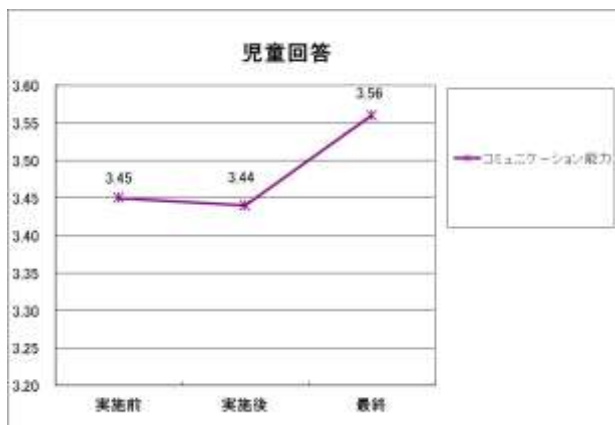
	午前	午後	夜
1日目	北広島町への移動	高校生との雪合戦 民泊受入家庭との対面式	民泊体験
2日目	スキー教室	スキー教室 高校生神楽部による神楽鑑賞	民泊体験
3日目	奉仕活動 出発式に向けた準備	出発式 県民の浜への移動	2校による交流会
4日目	藻塩づくり体験	終わりの会	

3 体験活動の指導の工夫

	事前学習	体験活動当日	事後学習
	<p>コミュニケーションに関係する事前・事後の指導</p>	<p>異年齢との交流 (1～3日目民泊)</p>	<p>地域への貢献について考えさせる同年齢との交流 (3～4日目地元泊)</p>
ねらい	<p>○高校生や民泊先家庭の方と交流をすることを通じて、自分の思いや自分達の地域のことを伝えるなど、自分の考えたことを相手に伝える力を高める。</p> 	<p>○高校生や民泊先家庭の方から、北広島町に対する思いや地域のためにできることなどを聞く。</p> <p>○話したり聞いたりする言語活動を積極的に取り入れて、コミュニケーションをとることが楽しいと感じさせる。</p>	<p>○北広島町で学んだことと蒲刈の地域の方との交流を関連付けて考えさせ、考え方が多様になったことを実感させる。</p> <p>○共通した体験を行い、児童同士の信頼関係が増した状況において、自分の考えを伝えることを通して、コミュニケーション能力を向上させる。</p>
活動内容	<p>○昨年度、体験をしている6年生からのアドバイス</p> <p>○社会科「わたしたちの国土」と関連させた学習</p> <p>○交流会に向けた準備</p> <p>○終了後に行う4年生に向けたアドバイス</p>	<p>○高校生との雪合戦・神楽を通じた交流</p> <p>○蒲刈出身者によるスキーの指導</p> <p>○北広島町と蒲刈・下蒲刈との比較を通じた民泊家庭との交流</p>	<p>○3日目～4日目にかけての交流会</p> <p>○地元蒲刈での藻塩づくり体験</p>
指導のポイントや工夫	<p>○昨年度民泊の体験をしている6年生に調査して、事前に準備しておいた方がよいことを調べておく。</p> <p>○蒲刈と北広島町の地域の特性による人々の暮らしぶりなどを、教科の学習と関連させて考えさせるとともに、話題として準備をさせる。</p> <p>○交流会に向けては、それぞれの学校の良さを伝えるために、相手によく分かるようにするためにはどうすれば良いかを考えさせる。</p>	<p>○高校生への質問を行い、高校生の考えを聞き出すようにさせる。</p> <p>○神楽という共通体験を行っている蒲刈小学校の児童の取組を紹介し、地域を盛り上げるために行っている共通する目的の他者の思いを聞かせる。</p> 	<p>○行く前と体験後の地元に対する思いの変化に気付かせる。</p> <p>○蒲刈小学校が、地域を盛り上げるために行っている神楽の取組と高校生の神楽を見たことを関連付けて考えさせる。</p> 

4 取組による成果

(1) データによる児童の変容



- 体験活動実施後にも、北広島町の方々との交流を継続していくことで、最終（1か月後）の「コミュニケーション能力」の項目が高まっています。

(2) 児童の感想

- ・ 民泊家庭の人は、出会いのときから自分達を待っていていたんだと感じました。昨年度も同じ家庭に民泊したと聞き、蒲刈小学校の様子を話したり、北広島町での冬のくらしについて聞いたりして楽しく過ごしました。民泊家庭に人も、わたしたちのくらしについて色々質問されたので、一生懸命考えて答えました。一緒に料理をするのがとても楽しかったです。学校に帰ったあと、6年生にそのことを話したら、「なつかしい」といって一緒にお礼の手紙を書きました。さっそく返事をくださり、とてもうれしかったです。
- ・ 民泊家庭の方に「雪かきがしたい」と言ったら、雪かきの仕方を教えてくれて、一緒に雪かきをしてくれました。ぼくたちの体を気づかってくれたり、やさしく話しかけてくれてすごく安心しました。ぼくたちの良いところをほめてくれてうれしかったです。
- ・ 「何のために」と直接聞くことはしていませんが、私たちが「町を元気にする」ために神楽に取り組んでいるように、高校生も町おこしを考えているのではないかと感じました。楽も舞もすごく迫力があって、ここまでには相当な練習が必要だろうなあと感じました。衣装を着たり大蛇の面をかぶったりする体験では、ぼくたちも神楽をやっていることを伝えると、関心をもってくれました。帰ってから、3月4日の神楽公演の案内状を送りました。あいにく予定が合わずに来ていただくことはできなかったけど、どんな様子だったか問い合わせがあったのがうれしかったです。
- ・ スキー体験でも雪合戦でも、高校生はスツとぼくたちに入りこんでくれました。ぼくたちは、少人数の中で過ごしているため、初対面に人に話しかけるのがどちらかというと苦手です。高校生は、どんどん自分達に話しかけてくれて、困ったときには親切にアドバイスをくれました。こんな高校生になりたいなあとあこがれの気持ちを持ちました。こちらに帰って、まずは、自分から友達や家族、異学年に話しかけてみようとするようになりました。
- ・ 北広島町での雪のあるくらしにくらべて、蒲刈に帰ってきてからの景色に改めておどろきました。藻塩体験は初めてではないけど、この海に囲まれた自然の中でできる特産物だと思いました。寒かったけど、塩水を煮詰める火があたたかかったです。北広島町の民泊家庭も、とてもあたたかかったのが心に残っています。

